

平成 27 年度第 1 回大阪府地方独立行政法人
大阪府立産業技術総合研究所評価委員会
議事要旨

- 1 日時 平成 27 年 7 月 30 日（木）午後 1 時 30 分～
- 2 場所 大阪赤十字会館 401 会議室
- 3 出席委員 田口委員長、大橋委員、中村委員、西村委員、舟木委員
- 4 議事内容

(1) 平成 26 事業年度業務実績の評価について

法人から、資料 1 から 8 に基づき、平成 26 事業年度の業務実績について報告が行われた後、質疑応答、小項目評価についての審議が行われた。

24 の小項目について審議を行った結果、22 の小項目については、法人の自己評価を妥当と判断した。

小項目番号 1 については、法人の自己評価はⅢであったが、

- ・企業の課題を把握し、解決につながる支援（受託研究、依頼試験、機器開放等）を提案する「提案型企業支援」を組織的に実施したこと。
- ・新たに設置した「ものづくりリゾ ンター」を中心に、課題を抱える企業に対して提案を行って産技研利用につなげ、企業の課題を解決する活動に取り組んだこと。

など、これらの取組みは、攻めの姿勢に基づき、「ものづくりリゾ ンター」を新たに設置し、積極的に企業ニーズを捉え、産技研の技術や研究成果を活用し、企業の技術課題の解決や製品開発の促進に寄与した。また、これらの活動は企業からも高い評価を受けていることを高く評価し、委員会評価をⅣとした。

小項目番号 17 については、法人の自己評価はⅢであったが、

- ・「ものづくりリゾ ンター」を「ものづくりリゾ ンター」に再編し、関係機関との連携や顧客拡大につなげたこと。
- ・大阪府や、MOBIO、大学、銀行、商工会議所、関西広域連合等と、様々な連携を行った。特に、（公社）産業安全技術協会（TIIS）、大阪大学大学院工学研究科と新たに連携協定を締結し連携強化を図ったこと。その他の関係機関とは、連携事業やイベント等を昨年度と同水準で実施したが、平成 26 年度は特に、学校向け見学会等の開催回数が増加したこと。

など、これらの取組みは、十分な実績をあげており、年度計画を上回って実施している。また、「ものづくりリゾ ンター」に再編し、関係機関との連携や顧客拡大につ

なげるだけでなく、産学官連携を進めるとともに、地域連携による社会貢献も行っていることを高く評価し、委員会評価をⅣとした。

<主な意見>

- 地方独立行政法人になって、所員もようやく独立行政法人としてのやり方が身についてきた頃だと感じる。今後、より一層の努力により、公務員体質から脱却することで、企業ニーズに的確に対応し、顧客目線でのサービスなど誠実に実施し、産技研の目的である中小企業の振興に寄与して頂きたい。
- 地方独立行政法人となってから3年目になり、顧客目線でのサービスであるオーダーメイド依頼試験や設備の時間延長を開始したことは、企業ニーズに的確に対応するためのフレキシビリティが向上したといえ、技術支援を通して企業の課題解決に最適なサービスを実施する産技研の本質に合致している。これからも、サービス向上に向けた新たな取組みや研究所全体のレベルアップを図り、産技研の機能を更に充実させて頂きたい。
- 産技研は中小企業に対する技術支援が基本事業であるが、「研究所」として、技術革新を通じて社会的・経済的な価値を創造する公的研究機関という側面もあり、研究活動も着実に進んでいることを実感した。研究機関として、新たな目標に常にチャレンジし、研究開発や研究開発成果の技術移転により、世界に冠たる研究所を目指して頂きたい。
- 産技研の「待ち」から「攻め」へと企業支援体制の転換を図り、「提案する」、「つなぐ」を基本姿勢とし、技術支援、研究開発、連携等、企業の課題解決に最適なサービスを積極的に提供する体制が現場にも浸透していることがよくわかった。今後も引き続きこれらの活動を継続するとともに、一層の努力により、企業ニーズに的確に対応し、顧客目線での新サービスを提供するなど、産技研の機能を更に充実させることを期待する。

(2) その他 特になし

以上